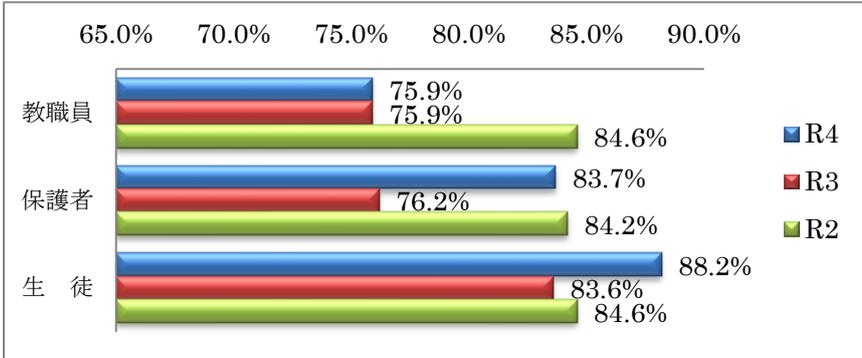
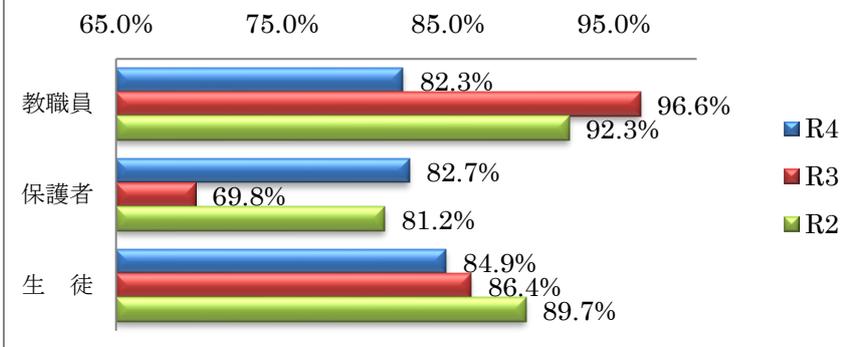


令和4年度 学校評価結果と考察及び改善の方向性

宮城県松山高等学校

	評価項目	アンケート結果(よく出来ている+大体できている) 肯定的意見 (%)																
1	生徒にとって、学ぶ意欲を引き出し、学力を身に付けられるような授業が行われている	 <table border="1"> <caption>アンケート結果 (よく出来ている+大体できている) 肯定的意見 (%)</caption> <thead> <tr> <th>対象者</th> <th>R4</th> <th>R3</th> <th>R2</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>教職員</td> <td>75.9%</td> <td>75.9%</td> <td>84.6%</td> </tr> <tr> <td>保護者</td> <td>83.7%</td> <td>76.2%</td> <td>84.2%</td> </tr> <tr> <td>生徒</td> <td>88.2%</td> <td>83.6%</td> <td>84.6%</td> </tr> </tbody> </table>	対象者	R4	R3	R2	教職員	75.9%	75.9%	84.6%	保護者	83.7%	76.2%	84.2%	生徒	88.2%	83.6%	84.6%
対象者	R4	R3	R2															
教職員	75.9%	75.9%	84.6%															
保護者	83.7%	76.2%	84.2%															
生徒	88.2%	83.6%	84.6%															
<p>【アンケート結果の考察】</p> <p>教職員は昨年度同様の値。保護者と生徒は昨年と比べ増加している。今年度の1年生は新教育課程が始まった年であり、そのことが影響していると考えられる。</p> <p>【次年度に向けて】</p> <p>次年度は新教育課程の生徒が1・2年となり、このことが結果にどのような影響を及ぼすか分からない部分もあるが、新教育課程に伴う教材や教育方法の検討を更に行っていききたい。</p>																		
2	生徒にとって、挨拶やマナーなどの基本的な生活習慣の確立に関する指導が行われている	 <table border="1"> <caption>アンケート結果 (よく出来ている+大体できている) 肯定的意見 (%)</caption> <thead> <tr> <th>対象者</th> <th>R4</th> <th>R3</th> <th>R2</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>教職員</td> <td>82.3%</td> <td>96.6%</td> <td>92.3%</td> </tr> <tr> <td>保護者</td> <td>82.7%</td> <td>69.8%</td> <td>81.2%</td> </tr> <tr> <td>生徒</td> <td>84.9%</td> <td>86.4%</td> <td>89.7%</td> </tr> </tbody> </table>	対象者	R4	R3	R2	教職員	82.3%	96.6%	92.3%	保護者	82.7%	69.8%	81.2%	生徒	84.9%	86.4%	89.7%
対象者	R4	R3	R2															
教職員	82.3%	96.6%	92.3%															
保護者	82.7%	69.8%	81.2%															
生徒	84.9%	86.4%	89.7%															
<p>【アンケート結果の考察】</p> <p>一部の生徒で服装や頭髪に改善がみられず、指導に苦慮する場面があった。そのためか、全般的に教員・保護者の評価は下がっている。</p> <p>【次年度に向けて】</p> <p>基本的な生活習慣の徹底は、学習や進路、学級活動などの教育活動を円滑に推進するために必要であり、様々な角度から生徒にその大切さを理解させる取組を行っていききたい。特に生徒自らが挨拶やルールを守ることの大切さを考え、主体的に取り組む姿勢を引き出す指導が必要である。</p>																		

3	生徒にとって、進路目標の明確化に向けた適切な指導が行われている	<p>A horizontal bar chart with three groups: 教職員 (Teachers), 保護者 (Parents), and 生徒 (Students). Each group has three bars representing R4 (blue), R3 (red), and R2 (green). The x-axis ranges from 65.0% to 95.0%.</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>対象者</th> <th>R4</th> <th>R3</th> <th>R2</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>教職員</td> <td>79.3%</td> <td>82.8%</td> <td>76.9%</td> </tr> <tr> <td>保護者</td> <td>86.5%</td> <td>72.2%</td> <td>76.7%</td> </tr> <tr> <td>生徒</td> <td>91.6%</td> <td>87.9%</td> <td>89.1%</td> </tr> </tbody> </table>	対象者	R4	R3	R2	教職員	79.3%	82.8%	76.9%	保護者	86.5%	72.2%	76.7%	生徒	91.6%	87.9%	89.1%
対象者	R4	R3	R2															
教職員	79.3%	82.8%	76.9%															
保護者	86.5%	72.2%	76.7%															
生徒	91.6%	87.9%	89.1%															
<p>【アンケート結果の考察】 教職員の評価は若干下がったが、生徒・保護者からは評価が向上している。</p> <p>【次年度に向けて】 行事に合わせた進路希望調査の実施ではなく定期的に行うことで、進路希望の変更がわかりやすい形式にし、次年度に引き継ぎしやすくしたい。Google などを利用して電子アンケート化も検討したい。</p>																		
4	生徒にとって、教員やカウンセラーが必要な時に相談に応じてくれる体制ができている	<p>A horizontal bar chart with three groups: 教職員 (Teachers), 保護者 (Parents), and 生徒 (Students). Each group has three bars representing R4 (blue), R3 (red), and R2 (green). The x-axis ranges from 65.0% to 95.0%.</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>対象者</th> <th>R4</th> <th>R3</th> <th>R2</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>教職員</td> <td>93.1%</td> <td>93.1%</td> <td>96.8%</td> </tr> <tr> <td>保護者</td> <td>83.7%</td> <td>70.6%</td> <td>82.7%</td> </tr> <tr> <td>生徒</td> <td>89.9%</td> <td>82.1%</td> <td>80.8%</td> </tr> </tbody> </table>	対象者	R4	R3	R2	教職員	93.1%	93.1%	96.8%	保護者	83.7%	70.6%	82.7%	生徒	89.9%	82.1%	80.8%
対象者	R4	R3	R2															
教職員	93.1%	93.1%	96.8%															
保護者	83.7%	70.6%	82.7%															
生徒	89.9%	82.1%	80.8%															
<p>【アンケート結果の考察】 SC, SSW の相談件数等は昨年と大きな違いはなかった。教職員の評価に大きな変化はないが、生徒・保護者の評価が向上している。</p> <p>【次年度に向けて】 SC や SSW については、教員側から積極的に生徒や保護者に対して活用を促すことにより向上が図られたのではないかと見られる。</p> <p>今後も保護者向けメール等を活用するなど、広報活動や情報提供の充実や生徒・保護者対象のアンケート等を参考にして、より良い体制づくりに取り組んでいきたい。</p>																		

<p>5 学校として、部活動は活発に行われている</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th>対象者</th> <th>R4</th> <th>R3</th> <th>R2</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>教職員</td> <td>37.9%</td> <td>27.6%</td> <td>30.8%</td> </tr> <tr> <td>保護者</td> <td>62.5%</td> <td>54.8%</td> <td>57.9%</td> </tr> <tr> <td>生徒</td> <td>69.7%</td> <td>60.0%</td> <td>64.7%</td> </tr> </tbody> </table>	対象者	R4	R3	R2	教職員	37.9%	27.6%	30.8%	保護者	62.5%	54.8%	57.9%	生徒	69.7%	60.0%	64.7%
対象者	R4	R3	R2														
教職員	37.9%	27.6%	30.8%														
保護者	62.5%	54.8%	57.9%														
生徒	69.7%	60.0%	64.7%														
<p>【アンケート結果の考察】</p> <p>本年度、運動部では地区予選を突破し、女子卓球部が県総体、女子バスケット部が県新人戦に出場した。文化部では吹奏楽部が各コンクールに参加するなど、継続的な活動を行った。各部とも生徒数の減少や生徒自ら自主的な取組が見られない影響もあり、活発な活動が行われているとは言える状況にない。特に運動部に関してはその傾向が顕著である。</p> <p>【次年度に向けて】</p> <p>ここ数年、生徒数の減少等により活動が難しい状態になってきている。活動状況を把握し、生徒のニーズに即した部活動の在り方を検討していきたい。運動部においては、大会出場にとらわれない形の運営形態も模索していきたい。また、生徒には部活動だけでなく生徒の学校での活動の在り方も検討していきたい。</p>																	
<p>6 学校として、生徒会活動は活発に行われている</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th>対象者</th> <th>R4</th> <th>R3</th> <th>R2</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>教職員</td> <td>65.5%</td> <td>72.4%</td> <td>57.7%</td> </tr> <tr> <td>保護者</td> <td>79.8%</td> <td>61.9%</td> <td>67.7%</td> </tr> <tr> <td>生徒</td> <td>82.4%</td> <td>71.4%</td> <td>77.6%</td> </tr> </tbody> </table>	対象者	R4	R3	R2	教職員	65.5%	72.4%	57.7%	保護者	79.8%	61.9%	67.7%	生徒	82.4%	71.4%	77.6%
対象者	R4	R3	R2														
教職員	65.5%	72.4%	57.7%														
保護者	79.8%	61.9%	67.7%														
生徒	82.4%	71.4%	77.6%														
<p>【アンケート結果の考察】</p> <p>生徒会としての活動については、コロナ渦ではあったが昨年度より行動が緩和されたこともあり、数年前と同様な活動が行えたことが生徒・保護者の評価につながったと思われる。しかし、教員は生徒会の取組としては物足りなさを感じたため評価が下がったと思われる。</p> <p>【次年度に向けて】</p> <p>今年度は4・5月には生徒会行事が多くあったため積極的に活動できたが、それ以降、生徒自ら積極的な活動が見られなかった。先生方の指導のもと、生徒に主体的に動く場面の設定や活動の方向付けを行う必要がある。</p> <p>次年度は、新執行部のもと、今年度の反省を活かし、年間を通して充実した生徒会活動、委員会活動に取り組んでいきたい。生徒会行事等を見ていると生徒が主体的に活動していくこと、発案から実践まで生徒主体で活動できるような「生徒の力を発揮させる指導」が求められている。</p>																	

<p>7 生徒にとって、有意義な学校行事がある</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th>対象者</th> <th>R4</th> <th>R3</th> <th>R2</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>教職員</td> <td>100.0%</td> <td>96.6%</td> <td>100.0%</td> </tr> <tr> <td>保護者</td> <td>86.5%</td> <td>70.6%</td> <td>72.2%</td> </tr> <tr> <td>生徒</td> <td>84.9%</td> <td>76.4%</td> <td>75.0%</td> </tr> </tbody> </table>	対象者	R4	R3	R2	教職員	100.0%	96.6%	100.0%	保護者	86.5%	70.6%	72.2%	生徒	84.9%	76.4%	75.0%
対象者	R4	R3	R2														
教職員	100.0%	96.6%	100.0%														
保護者	86.5%	70.6%	72.2%														
生徒	84.9%	76.4%	75.0%														
<p>【アンケート結果の考察】</p> <p>本校の教職員は高い評価を記録している。生徒・保護者については昨年度までともに 70%台に止まっていたが、今年度は 85%前後と向上している。コロナ禍であったが、制限も緩和され活動内容は規模を縮小したものの、学校行事等が一般に向けては公開でき、満足度等が得られたためだと思われる。</p> <p>【次年度に向けて】</p> <p>今年度は、生徒会行事同様、制限のあるもののコロナ禍前の活動をすることができた。また、学校行事に関しては多くの生徒は真剣に取り組む姿勢が見受けられ、協力して動こうとする意識が感じられた。</p> <p>学校行事を通して、生徒同士のコミュニケーション力の向上を図り、円滑な学校生活を過ごすためにも、本校での学校行事の意義は大変重要と捉えている。まだコロナ対策のため、通常の内容で開催できた行事はあると思われるが、次年度は、できる限り、通常に近い形での学校行事が実施できるようにしたい。</p>																	
<p>8 生徒にとって、地域や伝統などに根ざした特色ある学校づくりに取り組んでいる</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th>対象者</th> <th>R4</th> <th>R3</th> <th>R2</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>教職員</td> <td>75.9%</td> <td>79.3%</td> <td>73.1%</td> </tr> <tr> <td>保護者</td> <td>77.9%</td> <td>68.3%</td> <td>72.2%</td> </tr> <tr> <td>生徒</td> <td>81.5%</td> <td>76.4%</td> <td>76.9%</td> </tr> </tbody> </table>	対象者	R4	R3	R2	教職員	75.9%	79.3%	73.1%	保護者	77.9%	68.3%	72.2%	生徒	81.5%	76.4%	76.9%
対象者	R4	R3	R2														
教職員	75.9%	79.3%	73.1%														
保護者	77.9%	68.3%	72.2%														
生徒	81.5%	76.4%	76.9%														
<p>【アンケート結果の考察】</p> <p>コロナ禍ではあるが、少しずつ地域の行事が再開され、施設見学や生徒が参加する行事も増えてきている。</p> <p>【次年度に向けて】</p> <p>松山小学校交流授業や高齢者配食サービスなど地域と連携できるところは引き続き協力していきたい。</p>																	

<p>9 生徒に対して，災害・非常時の避難方法や連絡方法は伝えられている</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th>対象者</th> <th>R4</th> <th>R3</th> <th>R2</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>教職員</td> <td>89.7%</td> <td>93.1%</td> <td>92.3%</td> </tr> <tr> <td>保護者</td> <td>86.5%</td> <td>71.4%</td> <td>72.2%</td> </tr> <tr> <td>生徒</td> <td>89.1%</td> <td>85.7%</td> <td>84.6%</td> </tr> </tbody> </table>	対象者	R4	R3	R2	教職員	89.7%	93.1%	92.3%	保護者	86.5%	71.4%	72.2%	生徒	89.1%	85.7%	84.6%
対象者	R4	R3	R2														
教職員	89.7%	93.1%	92.3%														
保護者	86.5%	71.4%	72.2%														
生徒	89.1%	85.7%	84.6%														
<p>【アンケート結果の考察】</p> <p>避難訓練については，総務で実施したアンケートからも生徒の6割が「万が一に備えて準備を整えておかななくては悲惨な結果を及ぼす」と答えるなど実施する重要性を理解していることが解った。また，生徒が教員の指示に素直に従うことは解ったが個々での確な判断に基づいた行動が取れるか否かは不安なので，抜き打ち訓練の必要性を感じている。</p> <p>【次年度に向けて】</p> <p>担当者が機材の使い方を十分に把握していないなど，教職員の意識向上を更に図りたい。また，日頃から係毎の作業分担を十分に確認しておくべきであろう。保護者の意識が高まった現在，地域の小・中と連携した避難訓練に参加すれば，保護者が加わった生徒引き渡し訓練も同時に実施できるのではないかと。</p>																	
<p>10 保護者に対して，学校だよりなどによって，学校の情報は適切に伝えられている</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th>対象者</th> <th>R4</th> <th>R3</th> <th>R2</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>教職員</td> <td>96.6%</td> <td>79.3%</td> <td>84.6%</td> </tr> <tr> <td>保護者</td> <td>82.7%</td> <td>80.2%</td> <td>79.7%</td> </tr> <tr> <td>生徒</td> <td>92.4%</td> <td>87.9%</td> <td>90.4%</td> </tr> </tbody> </table>	対象者	R4	R3	R2	教職員	96.6%	79.3%	84.6%	保護者	82.7%	80.2%	79.7%	生徒	92.4%	87.9%	90.4%
対象者	R4	R3	R2														
教職員	96.6%	79.3%	84.6%														
保護者	82.7%	80.2%	79.7%														
生徒	92.4%	87.9%	90.4%														
<p>【アンケート結果の考察】</p> <p>すべての評価において，昨年度より上昇する結果となった。学校の様子がしっかりと保護者や生徒に伝わっているのだと考えられる。コロナ禍の影響で学校行事が縮小や変更を余儀なくされる中，情報発信をしっかりと行うことで，本校の教育活動に対する保護者の理解が深まると思われる。</p> <p>【次年度に向けて】</p> <p>今年度は，各分掌や学年において，情報発信を積極的に行うことができた。（学校だより，進路だより，松山組，保健だより，図書館だよりなど）次年度は，配布物が確実に家庭に届くよう，一斉メールで配布連絡を行ったり，HP や広報物（新聞等）をさらに積極的に活用するなどし，さらに適切に学校の情報を伝えていきたい。</p>																	

<p>11 校舎やグラウンドなどの施設や設備は整備されている</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th>対象者</th> <th>R4</th> <th>R3</th> <th>R2</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>教職員</td> <td>51.7%</td> <td>55.2%</td> <td>80.8%</td> </tr> <tr> <td>保護者</td> <td>62.5%</td> <td>63.5%</td> <td>63.9%</td> </tr> <tr> <td>生徒</td> <td>68.9%</td> <td>65.0%</td> <td>67.3%</td> </tr> </tbody> </table>	対象者	R4	R3	R2	教職員	51.7%	55.2%	80.8%	保護者	62.5%	63.5%	63.9%	生徒	68.9%	65.0%	67.3%
対象者	R4	R3	R2														
教職員	51.7%	55.2%	80.8%														
保護者	62.5%	63.5%	63.9%														
生徒	68.9%	65.0%	67.3%														
<p>【アンケート結果の考察】</p> <p>いずれの結果も低い評価となった。昨年度3月16日の地震による校舎の被害について、現在も改修が進んでいないことがその要因と考えられる。県施設整備課による確認では、揺れの影響が柱や壁の表面に出て、ひび割れや欠損、建具のずれが発生したが、建物本体の使用について問題はないとのことであった。</p> <p>【次年度に向けて】</p> <p>今年度は、4月に生徒と保護者へ説明し、文書の配布を行った。それ以降は、随時危険箇所が発生していないか確認し、必要に応じて立入禁止にするなど安全対策に努めた。国の災害復旧事業での修繕となるため、引き続き安全対策を講じながら早期の復旧を目指したい。</p>																	
<p>12 学校として、日頃からいじめの早期発見に取り組んでいる</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th>対象者</th> <th>R4</th> <th>R3</th> <th>R2</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>教職員</td> <td>100.0%</td> <td>89.7%</td> <td>100.0%</td> </tr> <tr> <td>保護者</td> <td>70.2%</td> <td>57.9%</td> <td>66.2%</td> </tr> <tr> <td>生徒</td> <td>76.5%</td> <td>65.0%</td> <td>65.4%</td> </tr> </tbody> </table>	対象者	R4	R3	R2	教職員	100.0%	89.7%	100.0%	保護者	70.2%	57.9%	66.2%	生徒	76.5%	65.0%	65.4%
対象者	R4	R3	R2														
教職員	100.0%	89.7%	100.0%														
保護者	70.2%	57.9%	66.2%														
生徒	76.5%	65.0%	65.4%														
<p>【アンケート結果の考察】</p> <p>コミュニケーションが上手くいかないことや様々な理由で不安感・不信感を抱いてしまうケースが多く見受けられる。アンケート調査を毎月実施しているため、教職員の評価は高いものの、保護者には夏休みのみアンケートをとっているため評価につながっていない。また、生徒においてはアンケートに本音を記入していない場合がある。これはアンケートに記入しても改善されないという思いがあるためと推察される。</p> <p>【次年度に向けて】</p> <p>アンケート調査等も含め、いじめを未然に防ぐための取組や生徒の情報を職員で共有できるシステムを構築する。</p> <p>いじめ防止のポスター掲示や生徒への呼びかけ、良好なコミュニケーションの取り方を学ぶ機会を増やすなど生徒へのアプローチを増やしていきたい。</p> <p>保護者に対してもいじめを未然に防ぐための取組等の情報発信に取り組みたい。</p>																	

<p>13 生徒にとって、学校生活は充実している</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th>対象者</th> <th>R4</th> <th>R3</th> <th>R2</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>教職員</td> <td>72.4%</td> <td>75.9%</td> <td>92.3%</td> </tr> <tr> <td>保護者</td> <td>78.8%</td> <td>69.8%</td> <td>82.0%</td> </tr> <tr> <td>生徒</td> <td>72.3%</td> <td>68.6%</td> <td>71.8%</td> </tr> </tbody> </table>	対象者	R4	R3	R2	教職員	72.4%	75.9%	92.3%	保護者	78.8%	69.8%	82.0%	生徒	72.3%	68.6%	71.8%
対象者	R4	R3	R2														
教職員	72.4%	75.9%	92.3%														
保護者	78.8%	69.8%	82.0%														
生徒	72.3%	68.6%	71.8%														
<p>【アンケート結果の考察】</p> <p>教職員の評価は低下しているが、生徒と保護者の評価は上昇する結果となった。コロナ禍により制約の多いなか、可能な範囲で学校行事等を工夫し実施してきた。そのようなことから、教職員側とすれば不十分と感じたものの、一方で生徒・保護者にとってはその工夫や取組が評価されたものと考えられる。</p> <p>【次年度に向けて】</p> <p>生徒・保護者がより充実感を感じられるよう、生徒の自主性を促しながら学校行事や生徒会活動、部活動などを展開していきたい。また、今年度研修を行ったユニバーサルデザインや ICT などを取り入れた授業実践などをさらにすすめ、わかりやすい授業を行っていきたい。</p>																	
<p>14 学校のウェブサイト（ホームページ）を見ている</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th>対象者</th> <th>R4</th> <th>R3</th> <th>R2</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>教職員</td> <td>58.6%</td> <td>69.0%</td> <td>61.5%</td> </tr> <tr> <td>保護者</td> <td>30.8%</td> <td>31.0%</td> <td>32.3%</td> </tr> <tr> <td>生徒</td> <td>28.6%</td> <td>31.4%</td> <td>30.8%</td> </tr> </tbody> </table>	対象者	R4	R3	R2	教職員	58.6%	69.0%	61.5%	保護者	30.8%	31.0%	32.3%	生徒	28.6%	31.4%	30.8%
対象者	R4	R3	R2														
教職員	58.6%	69.0%	61.5%														
保護者	30.8%	31.0%	32.3%														
生徒	28.6%	31.4%	30.8%														
<p>【アンケート結果の考察】</p> <p>そもそも本校職員や生徒は学校のウェブサイトを見る必要がないと考えているため、このような結果となったと考えられる。連絡が必要な場合はウェブサイトを確認するのではなく一斉メールや Google Classroom を活用するためより一層ウェブサイトを見なくなってきたと考えられる。</p> <p>【次年度に向けて】</p> <p>ウェブサイトを見る対象を受験を考えている中学生や外部の方に絞って記事の内容を精選することを検討したい。また、更新頻度をあげて学校から外部への情報発信を活発に行うことで活性化を図りたい。</p>																	

<p>15 図書館は利用しやすく、読みたい本や必要な資料がそろっている</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th>対象者</th> <th>R4</th> <th>R3</th> <th>R2</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>教職員</td> <td>96.6%</td> <td>96.6%</td> <td>96.2%</td> </tr> <tr> <td>生徒</td> <td>84.0%</td> <td>76.4%</td> <td>77.6%</td> </tr> </tbody> </table>	対象者	R4	R3	R2	教職員	96.6%	96.6%	96.2%	生徒	84.0%	76.4%	77.6%
対象者	R4	R3	R2										
教職員	96.6%	96.6%	96.2%										
生徒	84.0%	76.4%	77.6%										
<p>【アンケート結果の考察】</p> <p>授業等で図書館資料を利用いただいたことにより、ここ数年で探究、進路関係の図書が充実してきた。職員の利用が資料の充実に繋がるので、感謝している。</p> <p>一方で、生徒の回答は、前年度から評価が高くなったものの、生徒に届いていない、或いは、ニーズと選書がかみ合っていないということで、改善の必要がある。</p> <p>【次年度に向けて】</p> <p>予算の制限はあるものの、生徒・教職員ともにリクエストしやすい仕組み作りをし、読みたい資料、必要な図書や情報を備えられるようにしたい。</p> <p>広報活動を充実させ、図書や情報を手に取るきっかけ作りを行いたい。</p>													
<p>16 家庭で、学校の様子をお子さんと話題にする</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th>対象者</th> <th>R4</th> <th>R3</th> <th>R1</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>保護者</td> <td>83.7%</td> <td>77.8%</td> <td>83.5%</td> </tr> </tbody> </table>	対象者	R4	R3	R1	保護者	83.7%	77.8%	83.5%				
対象者	R4	R3	R1										
保護者	83.7%	77.8%	83.5%										
<p>【アンケート結果の考察】</p> <p>昨年度より高評価であった。学校の様子が家庭内で行われることは、学校に対する理解を深めていただくことにつながるので、非常に良い傾向であると思う。</p> <p>【次年度に向けて】</p> <p>引き続き高評価をいただけるよう、保護者と連携した学校づくりを目指し、さらにわかりやすい情報発信を意識していきたい。</p>													
<p>17 クラスは授業に集中できる雰囲気となっている</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th>対象者</th> <th>R4</th> <th>R3</th> <th>R2</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>教職員</td> <td>75.9%</td> <td>69.0%</td> <td>80.8%</td> </tr> <tr> <td>生徒</td> <td>66.4%</td> <td>54.3%</td> <td>52.6%</td> </tr> </tbody> </table>	対象者	R4	R3	R2	教職員	75.9%	69.0%	80.8%	生徒	66.4%	54.3%	52.6%
対象者	R4	R3	R2										
教職員	75.9%	69.0%	80.8%										
生徒	66.4%	54.3%	52.6%										
<p>【アンケート結果の考察】</p> <p>年度ごとに対象者の内容が変わるため単純な比較はできないが、昨年と比較して教職員・生徒共に肯定的な意見が多く見られた。これは新教育課程および新しい観点別学習評価実施となる今年度1年生に依るところが大きいと考えられる。</p> <p>【次年度に向けて】</p> <p>次年度はさらに新教育課程実施および新しい学習評価の対象となる生徒が1・2学年に増えるため、肯定的な意見が増えることを期待するとともに更なる教材研究や評価方法の検討を行っていきたい。</p>													

18	<p>保護者から学校へ気軽に相談できる雰囲気がある</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th>Category</th> <th>R4 (%)</th> <th>R3 (%)</th> <th>R2 (%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>保護者</td> <td>79.8%</td> <td>67.5%</td> <td>69.9%</td> </tr> </tbody> </table>	Category	R4 (%)	R3 (%)	R2 (%)	保護者	79.8%	67.5%	69.9%								
Category	R4 (%)	R3 (%)	R2 (%)															
保護者	79.8%	67.5%	69.9%															
<p>【アンケート結果の考察】</p> <p>メールでの情報発信を増やしてきたため、学校の様子が伝わり、そのことで学校への関心が見られるようになったため、気軽に相談できる状況が生まれ評価の向上が見られたのではないかと考えられる。</p> <p>【次年度に向けて】</p> <p>文書やメールなどにより、学校の情報を保護者に頻繁に伝えることが重要と思われる。</p> <p>コロナ禍で学校行事等にも参加できない状況が続いたが、できる限り参加していただける環境を作っていくたい。</p> <p>SCやSSWなどの活用についても積極的に情報提供していくたい。</p>																		
19	<p>学校行事をとおして、学校への帰属意識が高まっている</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th>Category</th> <th>R4 (%)</th> <th>R3 (%)</th> <th>R2 (%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>教職員</td> <td>79.3%</td> <td>75.9%</td> <td>88.5%</td> </tr> <tr> <td>保護者</td> <td>87.5%</td> <td>75.4%</td> <td>85.7%</td> </tr> <tr> <td>生徒</td> <td>83.2%</td> <td>72.9%</td> <td>71.2%</td> </tr> </tbody> </table>	Category	R4 (%)	R3 (%)	R2 (%)	教職員	79.3%	75.9%	88.5%	保護者	87.5%	75.4%	85.7%	生徒	83.2%	72.9%	71.2%
Category	R4 (%)	R3 (%)	R2 (%)															
教職員	79.3%	75.9%	88.5%															
保護者	87.5%	75.4%	85.7%															
生徒	83.2%	72.9%	71.2%															
<p>【アンケート結果の考察】</p> <p>生徒・保護者は非常に高い評価であった。コロナ禍でありながら、学校への帰属意識が上昇しているということは、昨年度に比べ制限が緩和されたことによる反動ではないかと考えられる。コロナ禍前の状況にはまだ完全に戻っているわけではないが、工夫や模索がうまく成果を上げているものと考えられる。</p> <p>【次年度に向けて】</p> <p>帰属意識を高めるために、生徒自身が自主的に行事運営できるような力の育成にさらに取り組んでいきたい。コロナ感染症の影響は今後も続くと思われるが、引き続き工夫して行事運営を行っていきたい。</p>																		

<p>20 委員会活動において、充実した活動ができている</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th>対象者</th> <th>R4</th> <th>R3</th> <th>R2</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>教職員</td> <td>69.0%</td> <td>69.0%</td> <td>84.6%</td> </tr> <tr> <td>生徒</td> <td>78.2%</td> <td>68.6%</td> <td>71.8%</td> </tr> </tbody> </table>	対象者	R4	R3	R2	教職員	69.0%	69.0%	84.6%	生徒	78.2%	68.6%	71.8%
対象者	R4	R3	R2										
教職員	69.0%	69.0%	84.6%										
生徒	78.2%	68.6%	71.8%										
<p>【アンケート結果の考察】</p> <p>大部分の生徒は与えられた委員会活動の仕事をきちんと行ったため、評価が向上した。しかし、各委員会において活動内容や頻度に差があったため、教員の評価が昨年同様低かった。</p> <p>【次年度に向けて】</p> <p>図書・保健委員会のように、各自の活動の他に校内環境のUD化の取組を行うなど積極的に活動している委員会もあるが、そうでない委員会もある。また、クラスの人数にばらつきもあり、人数が不足しているクラスと余っているクラスもある。そのため、次年度に向けて委員会の精選を行い、どの生徒にも活躍の場を与え、積極的に運営へ参加できるよう委員会活動の充実を図りたい。</p>													
<p>21 携帯電話を使った緊急メッセージは役に立っている</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th>対象者</th> <th>R4</th> <th>R3</th> <th>R2</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>保護者</td> <td>90.4%</td> <td>88.1%</td> <td>84.3%</td> </tr> </tbody> </table>	対象者	R4	R3	R2	保護者	90.4%	88.1%	84.3%				
対象者	R4	R3	R2										
保護者	90.4%	88.1%	84.3%										
<p>【アンケート結果の考察】</p> <p>例年通り高評価をいただいた。登校日や配布物に関する連絡はもちろんであるが、7月の大雨による連絡や、9月の台風による臨時休校の連絡など、防災に関する情報提供も適切に行ったことが要因と思われる。</p> <p>【次年度に向けて】</p> <p>今回の学校評価アンケートの自由記述において、一斉メールの内容について複数ご希望があった。(行事予定の配信希望など)次年度もさらに多くの機会に活用し、より迅速で確実な情報発信ツールとしていきたい。</p>													

<p>22 進路希望に応じて、必要な進路情報の提供は適切に行われている</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th>対象者</th> <th>R4</th> <th>R3</th> <th>R2</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>教職員</td> <td>82.8%</td> <td>79.3%</td> <td>92.3%</td> </tr> <tr> <td>保護者</td> <td>72.1%</td> <td>64.3%</td> <td>72.2%</td> </tr> <tr> <td>生徒</td> <td>89.9%</td> <td>80.7%</td> <td>85.9%</td> </tr> </tbody> </table>	対象者	R4	R3	R2	教職員	82.8%	79.3%	92.3%	保護者	72.1%	64.3%	72.2%	生徒	89.9%	80.7%	85.9%
対象者	R4	R3	R2														
教職員	82.8%	79.3%	92.3%														
保護者	72.1%	64.3%	72.2%														
生徒	89.9%	80.7%	85.9%														
<p>【アンケート結果の考察】 教職員・生徒は高評価だったものの、保護者の評価が低かった。進路情報が届いていないと思われる。</p> <p>【次年度に向けて】 進路便り発行に合わせ、一斉メールによる連絡を徹底する。 HP に PDF 化した進路便りを乗せ、保護者の手に届かなくてもみることができるようにする。</p>																	
<p>23 学校の連絡事項を、生徒は保護者へいつも伝えている</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th>対象者</th> <th>R4</th> <th>R3</th> <th>R2</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>教職員</td> <td>44.8%</td> <td>37.9%</td> <td>50.0%</td> </tr> <tr> <td>保護者</td> <td>65.4%</td> <td>69.8%</td> <td>75.9%</td> </tr> <tr> <td>生徒</td> <td>78.2%</td> <td>73.6%</td> <td>77.6%</td> </tr> </tbody> </table>	対象者	R4	R3	R2	教職員	44.8%	37.9%	50.0%	保護者	65.4%	69.8%	75.9%	生徒	78.2%	73.6%	77.6%
対象者	R4	R3	R2														
教職員	44.8%	37.9%	50.0%														
保護者	65.4%	69.8%	75.9%														
生徒	78.2%	73.6%	77.6%														
<p>【アンケート結果の考察】 生徒の評価は高いが、教職員は低評価である。回収物など、家庭からの返事が欲しいような案件についてなかなか確認が取れず、多くの時間を家庭との電話連絡に割いている様子も見られることから、教職員の実感として、必要な連絡事項が家庭にまで届いていないように感じているのだと考えられる。</p> <p>【次年度に向けて】 HP や一斉メールなどを活用し、学校からの情報発信を積極的に行っていきたい。また、Google のアンケート機能をこれまで以上に活用していきたい。</p>																	

24	<p>【家政科のみ】家庭科の基本的知識や家庭科の技術の習得ができる指導が行われている</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th>対象者</th> <th>R4</th> <th>R3</th> <th>R2</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>教職員</td> <td>89.7%</td> <td>89.7%</td> <td>65.4%</td> </tr> <tr> <td>保護者</td> <td>90.0%</td> <td>88.3%</td> <td>77.4%</td> </tr> <tr> <td>生徒</td> <td>95.8%</td> <td>90.5%</td> <td>87.6%</td> </tr> </tbody> </table>	対象者	R4	R3	R2	教職員	89.7%	89.7%	65.4%	保護者	90.0%	88.3%	77.4%	生徒	95.8%	90.5%	87.6%
対象者	R4	R3	R2															
教職員	89.7%	89.7%	65.4%															
保護者	90.0%	88.3%	77.4%															
生徒	95.8%	90.5%	87.6%															
<p>【アンケート結果の考察】 いずれも高い評価であった。発表会など作品や成果の発表の機会があることと、技術検定資格取得等を通して生徒達は技術を習得していることが実感できていると思われる。</p> <p>【次年度に向けて】 発表会・技術検定受検等、今後も発表の機会を大切にしながら、上級資格に挑戦するように指導していきたい。</p>																		